

はじめに

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学教育学部附属静岡小学校 公開日: 2024-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山田, 卓 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000611

は じ め に

日頃より、静岡大学教育学部附属静岡小学校の教育、研究にご理解ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。このたび、研究の一端を研究紀要という形で発表させていただきました。忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

本校は、『自らをきりひらく』を学校教育目標に掲げ、「開拓と創造」につながる一人の人間としての理想像「自らの道、自らの将来、自らの運命などを自分の力できりひらくこと」、「前途やその周辺に存在するあらゆるものをよく見極め、これからの自己の向上や周囲の改善に資すること」を目指してきました。

今、私たちの生活様式は、政治・経済・社会のグローバル化や急速な情報化により、質的にも量的にも変化しています。近年話題のA I（人工知能）の進化も、人間の思考がついていけないのではという危機感すら感じる状況です。立ち止まって、自分はどうかありたいのかを考えないと、自分を見失ってしまうのではないかとさえ思えてきます。だからこそ、自分の力で生きていくことの意味を考えていくことが大切になってくると思います。これこそが、前述の本校の学校教育目標『自らをきりひらく』ことに他ならないといえます。

学校教育全般に渡って、子どもたちの『自らをきりひらく』教育は行われますが、授業を通して私たちができることを考えるのが教育研究の土俵だといえます。本校は永きに渡り、子ども理解を基盤に据え、「子どもの学び」を問う研究を継続してきました。今までの研究で明らかにしてきた子どもの学びの履歴を積み重ねれば積み重ねるほど、子どもの学びの有り様は実に個性的かつ魅力的なものであり、さらに子どもの学びを追い求めたいという衝動に駆られます。

令和4年から立ち上げた研究主題『その子らしく学ぶ』は3年目を迎えます。1年次の研究では、子どもにとっては、「その子らしさ」が広がり・深まる可能性が、教師にとっては、『その子らしく学ぶ』に目を向けることで、子どもの「とらえ」が磨かれる可能性が見えてきました。そして、2年次の昨年は、研究の可能性や価値について広く深く探っていくために、“その子が自分と対象とを結びつけながら進んでいく”という共通の見方をもって『その子らしく学ぶ』を見つめてきました。そうしてきた中で見出されてきたものは、『その子らしく学ぶ』子どもの「うまくいかなさ」を見つめていくことは、その子の「学び」を顕在化したものとして捉えられるようになること、子どもが心の動きを伴う経験をするには『その子らしく学ぶ』をより豊かにするのではないかということ、子どもが「自分の見方」を十分に働かせることで、教科の学びの獲得は保障されるのではないかということ、これら3つの関係性が見えてきたことによって「子どもが学ぶ」という営みが見えてきたということです。

これらの研究の可能性や価値から研究3年次では、“心の動きを伴う経験によってその子に還るもの”が研究の視点となり得るかを子どもの姿を根拠に検証し、心の動きを伴う経験によってその子に還るものの具体を見出そうとしています。

本校の研究につきまして、さまざまなご指導ご助言をいただきました県内各校の協力員の先生方、共同研究者としてご協力くださいました静岡大学教育学部の先生方、附属静岡小学校OBの皆様方、その他多くの方々に深く感謝いたします。

令和6年3月

静岡大学教育学部附属静岡小学校
校長 山田 卓